

第1248号

株式会社 茨城木材相互市場

2023

那珂川 NEWS

12

育てませんか あなたと私の Wood コミュニケーション

支援事業がスタートします！

子育てエコホーム事業

11月10日に閣議決定された、新たな住宅の省エネ化支援「子育てエコホーム支援事業」について、その事業の補助対象の要件や補助額等が国土交通省より公表されました。

※国会での補正予算の成立が前提となります。(R5.12.5成立予定)

【制度の目的】

子育て世帯・若者夫婦世帯による高い省エネ性能を有する新築住宅の取得や住宅の省エネ改修等に対する支援で省エネ投資の下支えを行い、2050年カーボンニュートラルの実現を図る。

【対象期間】

新築:2023年11月2日以降に基礎工事より後の工程の工事に着手するもの

リフォーム:2023年11月2日以降に工事に着手するもの

【対象住宅】(住宅の新築)

新築:子育て世帯・若者夫婦世帯による住宅の新築や購入で、延床面積50㎡~240㎡の①長期優良住宅もしくは②ZEH住宅

リフォーム:必須)断熱改修もしくはエコ住宅設備設置

(任意)子育て対応・防犯・バリアフリー改修、空清・換気エアコン設置、リフォーム瑕疵保険加入

【補助額】

新築:①長期100万円/戸、②ZEH80万円/戸 ※但し、市街化調整区域且つ土砂災害警戒区域又は浸水想定区域等では原則半額。

リフォーム:子育て世帯・若者夫婦世帯は上限30万円/戸、その他の世帯は上限20万円/戸 ※既存住宅の購入リフォームや長期優良住宅認定を受ける場合は上限額UP

【申請者】事業者登録が必要

新築:建築事業者、販売事業者

リフォーム:工事施工業者

【申請期間】

令和6年3月下旬~12月31日(予算上限に達するまで)

子育てエコホーム支援事業の詳細につきましては下記リンクよりご確認ください。

https://www.mlit.go.jp/report/press/house04_hh_001203.html



日刊木材新聞 11月20日号より

年間最大記念市「第46回木材まつり」
品薄で杉柱角が値上がり

87人参加で売上高1億7500万円

茨城木材相互市場(茨城県水戸市、大谷知行社長)は14日に創立68周年記念市木材まつりと第46回茨城県木材まつりを併催した。同社今年最大の記念市に、買い方など87人が参加した。北関東の原木不足から、11月に入ると杉柱角を中心に品薄感がさらに強まってきた。杉柱角は市売問屋の仕入れコストが上がり始め、立ち合いで値上がりが通った。今回は茨城県産材推進協議会の協賛で1億7500万円を売り上げた。

11月上旬に産地である栃木の製品相場が上昇した。栃木の相場に関東一円の製品価格が連動する傾向が強い。今回の市では杉柱角KD特等が、市売の指し値6万3000~5000円(市場渡し、立方)の前月比3000~5000円高で売れた。

桧土台4寸×105角KD特等は8万5000円で突っ張った。同120角は7万5000円で売れた。杉間柱3寸×30、45×105角KD特等は6万3000~5000円前後で売れた。45角が集めにくい。杉のタルキ4寸×45角、60×45角KD特等は6万5000~7万円前後。同桧4寸×45×55角は9万5000円前後。グリーン材の値上がりが重い。

大谷社長は「中国木材鹿島工場の火災や北関東の原木不足の影響で、ミニウッドショックの様相を呈している。製品安・原木高で我々の大切な仕入れ先である製材工場や山林経営者が疲弊している。今こそ川上から川下まで潤う流通形態を構築するため、適正価格の安定維持が必要になる」と語った。

銚田樹一茨城県産材推進協議会会長は「協議会を10年続けるなかで県や設計事務所などに営業してきたが、ようやく2~3つの案件で芽が出てきた。杉・桧丸太とも夏場の底値から倍の価格になっている。需要が崩れた結果だが、県産材需要拡大の観点からも製販ともに正念場になる」と述べた。(一部省略)

■わたしたちの使命(SDGs)

(茨城木材の社会的役割)



「消費と生産を結ぶ価値ある架け橋」となる
一循環型地域環境の創造一

1. 地域の人々により良い「住環境」を提供すること
2. 茨城県の森林環境を守ること



	令和5年10月新設住宅着工				
	計	持家	貸家	給与住	分譲住
全国計	71,769	18,078	31,671	438	21,582
前期比	93.8%	88.8%	99.6%	78.5%	91.3%
茨城県	1,348	590	521	4	233
前期比	91.1%	89.7%	112.2%	51.0%	72.0%

県内市別の状況及びR5年度累計は弊社Facebookをご覧ください。

時評

地域という視点

物流の2024年問題が話題になって久しいが、いよいよ残業規制強化が目の前に迫ってきた。

長距離輸送をしているメーカーは、中継拠点の整備やモーダルシフトなどの取り組みを進めているようだが、地域の流通会社などは、「当社は、仕入れは長距離があるが、販売は地域内なのであまり問題はない」という。実際に残業規制強化が始まらないと表面化してこないとみられるが、メーカーは長距離ドライバーの確保を進め、それは賃金に表れてくるだろう。

長距離の賃金が上がれば、中距離ドライバーも長距離にシフトする可能性もあり、ドライバーの賃金上昇や従来の物量を確保するのに苦労することは十分予想される。

スマートフォンのGPS機能を使ってトラックの動態管理を行い、効率的な配送やリアルタイムで納品のタイミングを把握するなど、物流業界でもIT化が進み、業務の効率化への取り組みが始まっている。

幹線物流での高速道路の自動運転も期待されるし、脱炭素の観点からは、船舶や鉄道などを使ったモーダルシフトも考えられる。木材業界の一部では、モーダルシフトへの取り組みもある。

ただ、木材・建材業界は、最終的には個別の現場配送が付きまとうので、トラックによる陸送からは逃れられない。

工場の設備投資でも生産拡大より、残業削減や省力化による高齢者や女性の活躍範囲を広げようという動きもあり、人材対策が事業継続で重要性を増している。

物流の24年問題も、単にドライバーを確保して従来どおりの物流を維持するという考え方ではなく、現場により効率的に運び顧客満足度を高める視点も必要だ。

ただ、昨今のECサイトのように、頼んだらすぐ届く、不在なら再配達当たり前の世界ではサービス提供側が疲弊し、事業の継続性が危ぶまれる。

利便性と価格は相関関係があり、適切な対価を払わないと良質なサービスを受けられない時代がすぐそこまで来ているようにも感じる。

施策の変化が、業界に変化を促し、それに対応できるよう工夫し、事業を継続していくような取り組みが求められる。

生産も、大規模に作り遠くまで運ぶというこれまでの在り方から、より地域に密着して、需要地の近くで作るということを考えていく時なのかもしれない。

まさに国産材、地域産の木材を地域で使う地産地消は物流効率や脱炭素の意味でも理にかなっているといえそう。これまでのグローバルに資材を調達し、大規模に生産して商品を提供する市場から、地域で資源が循環するローカル型のネットワークへの転換が進んでいくものとみられ、これまで以上に地域を重視した企業経営が求められているように感じる。

(エコ太郎)

日刊木材新聞 令和5年11月9日号「時評」より

社員からのメッセージ

氏名 飯塚 春翔

仕事 プレカット営業部
営業担当

血液型 B型

星座 うお座

趣味・最近

あった出来事

最近は一瞬レフカメラで

写真を撮る事にハマってます。

メッセージ

まだまだ未熟ですが精一杯頑張ります。

宜しくお願いします!!



氏名 谷津 浩二

仕事 西原事業所

製造課 設計係

血液型 O型

星座 蠍座

趣味・最近

あった出来事

プチ断食をはじめて

半年で5kg痩せました!

メッセージ

西原事業所でプレカットCADを担当しています。難しい案件にも対応いたしますのでご用命宜しくお願い致します。



氏名 古木 克紀

仕事 つくば営業所
営業担当

血液型 O型

星座 てんびん座

趣味・最近

あった出来事

先日、つくばの間屋で忘年会を行いました。

久しぶりに皆さんとお酒を飲むことができ楽しかったです。

メッセージ

皆さんに信頼してもらえる営業マンを目指して頑張りますので、宜しくお願いします。

